

今年度も残すところ……

明けましておめでとうございます。今年度のふよう教室も、本日も入れて残すところあと2回となりました。保護者の方々と情報の交換を通して、一人一人のお子さんにあった活動内容や教育相談の充実に重点を置いて、年間8回の開催を計画しました。今回から次回にかけて、今年度のお子さん一人一人の実態に合わせて、「ふよう教室カード」をもとに、ふよう教室で取り組んでいることやお家や学校でできることをお伝えしていきます。是非、日々の生活に役立てていただくとともに、その後の様子についても教えていただけたらと考えています。

今年度のコラムもあと2回となりましたが、少しはお役に立てたでしょうか。コラム17より担当していますが、毎回、どんな内容を取り上げたら日常生活に役立つ情報の提供や共通理解ができるかを考えています。今回は「**触覚**」についてお話しします。



【にこにこ相談会】 2月

14日(金)は全体でまとめの会をします。来年度のふよう教室についての話もあります。是非、ご参加ください。

【コラム31】触覚とは「触った感じ」のことで、人間が生まれるときには最も重要な感覚です。触覚は大きく分けると次の2種類になります。

◆**防衛機能** (大丈夫! — 危ない!) 触っているものが**安全かどうかを判断するための手段 (危険回避)**

◆**識別機能** (なるほど!) 「これはなんだろう?」と、**ものに触って確かめる手段 (探索行動)** ところが、**※触覚がスムーズに働かないと…**

★**過敏すぎて、触られることに不快や恐れを感じます。**「〇〇君」と声をかけそばに寄っただけで、キックやパンチをしたり悲鳴をあげたりすることがあるかもしれません。また、お風呂に入るのを怖がって泣いたり、手洗いで服の袖が濡れてしまうとパニックになってしまったりするお子さんもいます。これに対して、

★**鈍感の場合、接触に対して無関心だったり気づかなかったりします。**その接触が心地よいもの(赤ちゃんの時の抱っこ)であっても、**苦痛を伴うもの(つま先をぶつけて血が出ている)**であっても、**無頓着(喜んだり、泣いたりしない)**だったりします。また、中には

★**強い刺激を求めて、目に見えるものすべてを触って感じようとします。**「触ってはダメ」とわかっているもの(壊れやすい食器や、熱い鍋でも)を手にしてしまうことがあります。また、**他人に必要以上に近寄ったり、相手が嫌がっても撫でたりする、服や体が汚れるような遊び(泥、粘土、糊、絵の具など)が大好き**だったりします。 **※それでは、触覚が日常生活にどのようにつながっているのでしょうか?**

☆**体の地図ができにくい** → 自分の体が十分にわからない(着替えが苦手など)

☆**行為機能(体を上手く使う能力)が十分に働かない**

→ 手足を上手く動かすことができない(箸やはさみ、鉛筆など道具を使うことが苦手など)

でも、**☆感覚情報が上手く調整されると…**

人との接触を上手く受けとめることができ、集団生活や社会生活で**有意義な人間関係**を築いていくことができます。

◆**家庭でできる触覚の発達を促す活動は?** ・お肌つるつるごっこ ・水遊び ・指絵具

・背中にお絵かき ・砂遊び ・ブラックボックス ・口で遊ぼう ・親子でクッキング

・自然に親しもう ・ペットをかわいがろう ・人間サンドイッチごっこなど。詳しくは

「ふよう教室だより」のバックナンバー「コラム20 自然の中で遊ぼう」「コラム24 口を使った遊び」「コラム25 さわって考える遊び」をご覧ください。

